

リプレースと合わせて！

PCのアップデート管理も
非常に大切です！！

何でWSUSが必要なの？

PC毎にアップデートをバラバラでアップデートしていると・・・



ユーザが不満

- 大切な処理の最中にアップデートが実行され始めた
- 業務アプリが対応できてないバージョンになってしまった



全ユーザが不満

- 多数のPCが同時にアップデートしてしまい、インターネットアクセスが遅くなった
- 業務処理（業務連携）に支障が出た



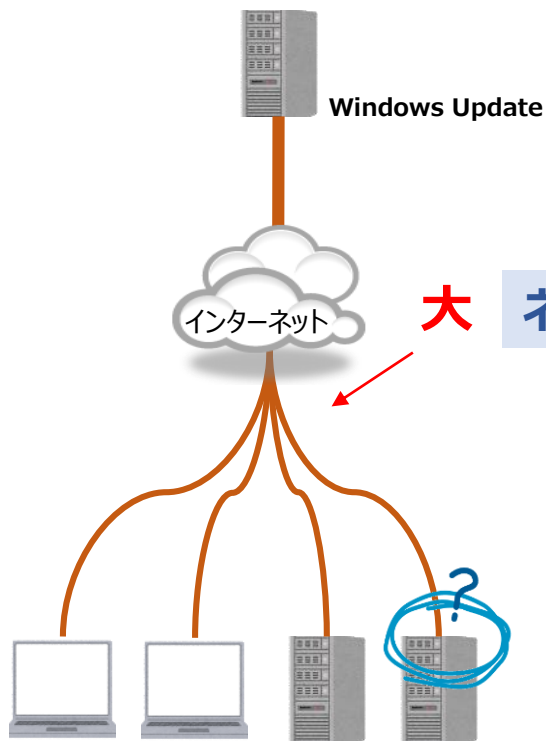
管理者が困る

- 事前にユーザへアップデート実施のスケジュールが告知ができない
- どのPCがアップデートできているか管理できない
- 利用用途ごとにアップデートの適用を管理したい
- 不適切な更新プログラムを管理者側で削除できない

WSUS – Windows Server Update Service–

WSUSとはMicrosoft製品の各種ツールやドライバなどを含むWindows Updateによる配信される様々な更新プログラムを**企業内ネットワークで一元管理**し、時間と手間、リスクを抑える事ができる。

WSUSが存在しない場合



各自/各クライアントから更新
(更新した? していない?)

WSUSで一元管理した場合



WSUSサーバーから一元管理
(更新する/しないを一元管理し、
グループ毎に適用など)

WSUS導入による効果



コンピュータ単位や適応する更新プログラムを指定



各クライアントの更新状態が管理でき、レポートも可能



ローカルで保存してから配布するので、トラフィックは社内ネットワークだけに限定。適用タイミングも管理者が決める。



情報収集後による適用でリスク回避

WSUS の設定ガイドやナレッジも有効に・・・



Windows Server Update Services (WSUS) 設定ガイド

Dell EMC PowerEdge タワー型サーバーを活用した
Windows 10 パソコンの更新管理設定ガイド

デル株式会社
2019年4月

目次

はじめに
前提条件
WSUS サーバーの構築手順
Windows 10 PC の設定手順

The screenshot shows the Dell Support website interface. At the top, there is a navigation bar with tabs for '製品' (Products), 'ソリューション' (Solutions), 'サービス' (Services), 'サポート' (Support), and 'コミュニティ' (Community). Below this is a secondary navigation bar with '製品サポート' (Product Support), 'ナレッジベース' (Knowledge Base), '保証および契約' (Warranty and Agreements), 'サービスリクエスト' (Service Requests), 'オーダーサポート' (Order Support), and 'サポートへのお問い合わせ' (Contact Support). The main content area has a breadcrumb trail: 'サポート > ナレッジベース'. The article title is '[Windows Server] Windows UpdateおよびWindows Server Update Services(WSUS)に関するナレッジベース記事'. There is a language dropdown menu set to '日本語' and a link to 'FAQ TOPに戻る'. A grey box contains the text 'はじめにお読みください'. Below that, a paragraph states: '本ドキュメントでは、Windows UpdateおよびWindows Server Update Services(WSUS)に関するナレッジベース記事へのリンクをご紹介します。'. The article content is organized into two sections: 'WSUS設定' and 'Windows UpdateおよびWSUSのトラブルシューティング'. The 'WSUS設定' section includes a bulleted list of links to related articles: 'Windows Server Update Servicesにおけるコンピュータグループ管理方法', 'Windows Server Update Servicesコンピュータグループにおけるアップデート承認設定方法', 'Windows Server Update Servicesコンピュータグループにコンピュータを追加するためのグループポリシー使用方法', and 'Windows Server Update Services(WSUS) 3.0コンテンツデータベース移動方法'. The 'Windows UpdateおよびWSUSのトラブルシューティング' section includes a bulleted list of links to related articles: 'Windows Server Update Services(WSUS)コンソールの一覧にないコンピュータ', 'WSUSサーバーからアップデートチェック中のエラー80244021', 'Windows Small Business Server 2008または2011コンソールでアップデートのステータスが"Not Available"', '名前付きパイプを利用してWindows Small Business Server 2008内部データベースインスタンス(MICROSOFT#SSEE)にアクセスできない', 'システムアップデート準備ツールを使用してWindowsアップデートの問題を修復', 'Windows 8およびWindows Server 2012におけるコンポーネントストア破損修復手順', 'Windows Server 2008以降のWinSxSディレクトリについて', and 'SoftwareDistributionフォルダについて'.

https://japancatalog.dell.com/c/wp-content/uploads/WSUS_Whitepaper.pdf

<https://www.dell.com/support/article/jp/ja/jpbsd1/sln286590/windows-server-windows-updateおよびwindows-server-update-services-wsus-に関するナレッジベース記事?lang=ja>

ここで気が付いて欲しいのです！

PCがあるお客様はサーバーも
少なからずお持ちなのですよ！

Windows Server 2019で ファイルサーバーをハイブリッド化！

Windows Server 2008もWindows 7と一緒にタイミングでサポートがきれます。
「サポート終了」が意味することは 一緒です。セキュリティのリスクやウィルスの被害を受ける可能性が高くなります。

Windows Server 2008 サーバーの発売当時とは違って、ファイルサーバーとして利用が拡大しているのが、クラウドストレージ

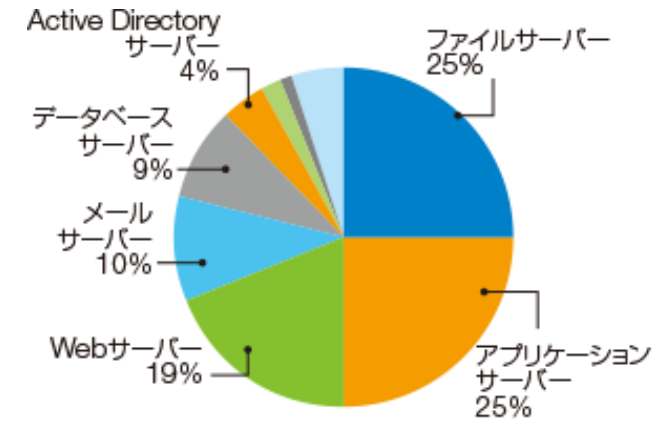
Windows Server 2019では、オンプレミスによるファイルサーバーとクラウドストレージが持つ両者のメリットを統合したハイブリッドファイルサーバー機能があります

- ✓ クラウドストレージサービスAzure Filesと接続する Azure File Sync サービスを利用可能
- ✓ ファイルサーバーの使い勝手はそのままに、オンプレミスのファイルを Azure上に同期可能

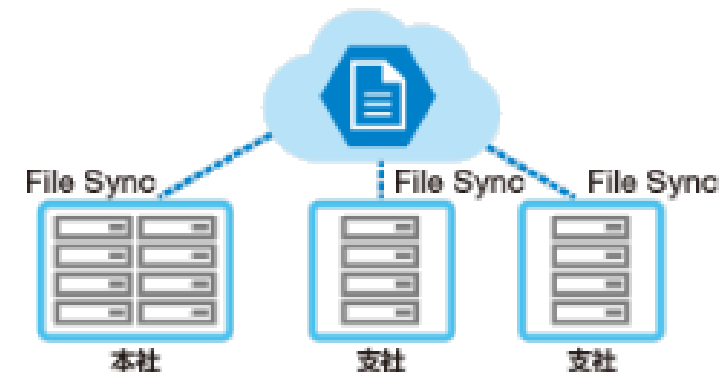
例：よく利用するファイルは、オンプレミスのサーバー上にキャッシュされることで、すばやいアクセスが可能となり、滅多にアクセスしないファイルは Azure上に配置されることで、オンプレミスのサーバーのストレージを圧迫することがない。

https://japancatalog.dell.com/c/1st_wins2019/

https://japancatalog.dell.com/c/wp-content/uploads/Windows_Admin_Center_Backup_Whitepaper.pdf



ワークロード別のWindows Server 2008/R2の稼働台数
出典：株式会社MM総研 (2018)



さらに付加価値提案に！

データ保護 (バックアップ)

データ保護はイマドキ必要？



よくあるご意見

対障害

- サーバーのディスクはRAID構成にするから壊れない
- PCのデータはファイルサーバやクラウドへ保存すれば良い
- 管理が面倒だし、結局使えない

対セキュリティ

- ウィルス対策を万全にすれば問題無い
- スナップショットでどうにかできる

対コスト

- 大企業じゃないからそこまで重要なデータはない
- と言うか、根本的にそんなコストはない

データ保護は必要です！

クライアントPCを取り巻くリスク

70%

のデータはファイルサーバ等の組織管理下に保存されておらず、個々のPC本体内や個人所有のUSBデバイスに存在しており、その管理はエンドユーザに依存しています。

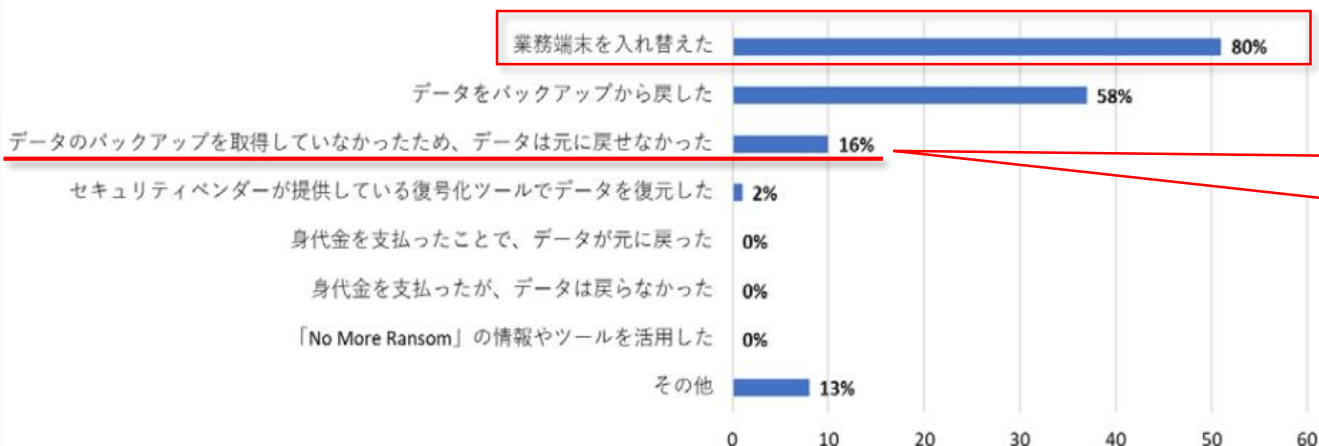
JPCERT/CCが行ったランサムウェア被害調査によると、**国内の**組織が被害を経験したという実態が明らかになった。

その**対処のために80%**もの組織が業務端末を入れ替えている

35%

ランサムウェアの脅威動向および被害実態調査報告書 1.0版

(n = 64, 複数回答可, 横軸:回答数)



バックアップをしても、データの復旧に失敗するケースも

クライアントPCバックアップをどう考えるか

主なリスク

人的ミス、ハードウェア障害
によるデータロス

PC入替時の作業データ移行

サイバー攻撃被害からの復旧

導入メリット

ユーザーの生産性向上と
IT管理者負荷軽減

IT管理者負荷軽減

組織としての信用度

経営者の考え

個人PC内データ程度の紛失は
組織として大きな痛手ではない

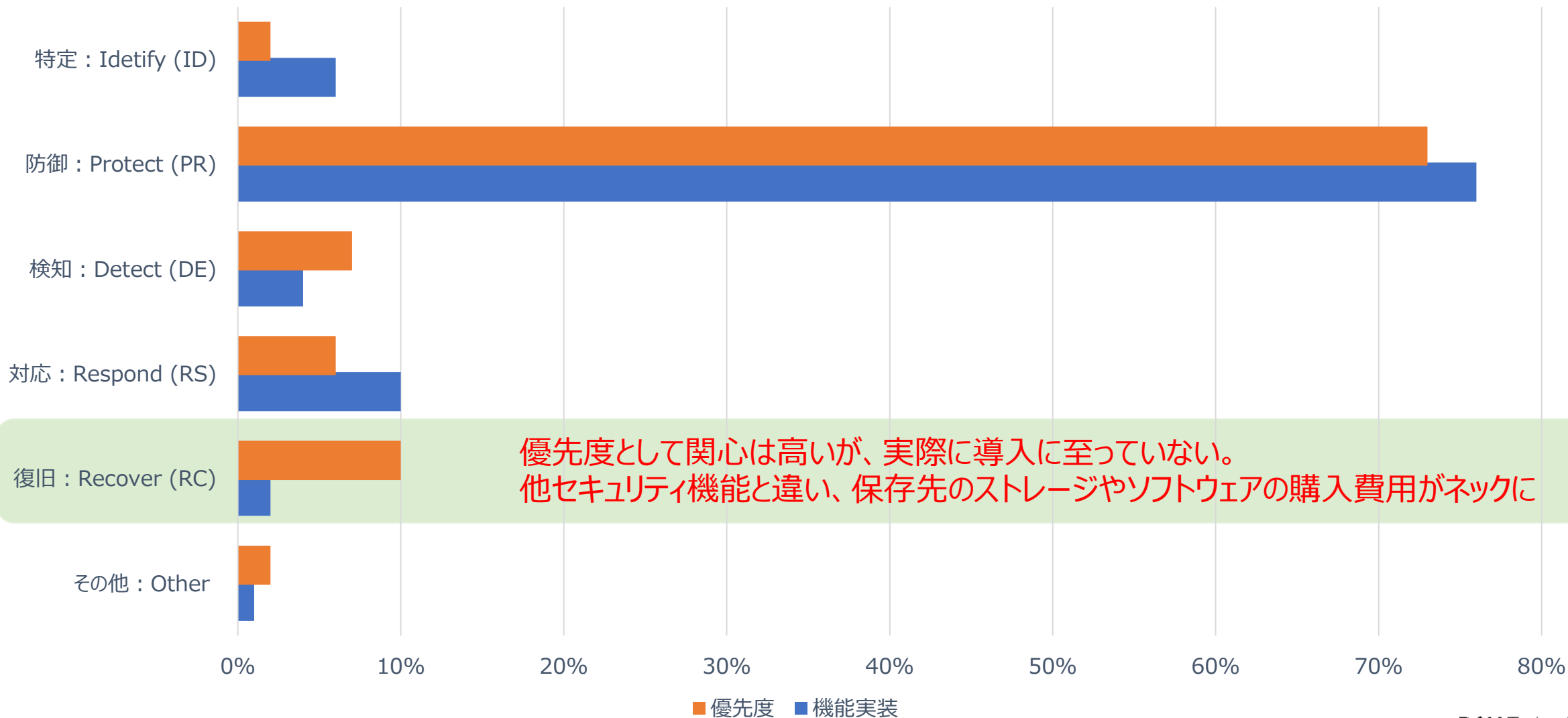
IT管理者が作業すれば良いだけ
金をかけずに手をかける

セキュリティ対策実施済
自分の組織は大丈夫だろう

重要度が低いデータのための万が一のリスクに投資はしたくない

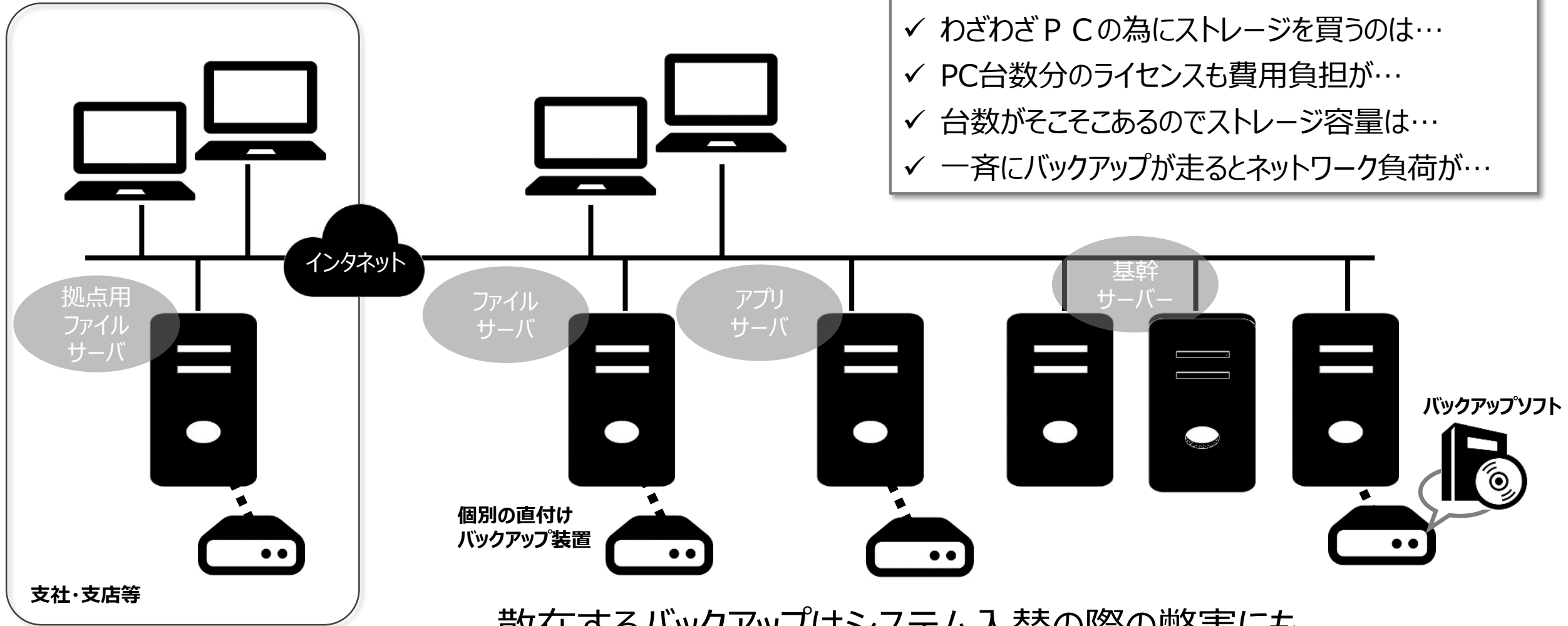
セキュリティ対策としての復旧対策への関心

セキュリティ機能の優先度と実装度合



クライアントPCを取り巻くリスク

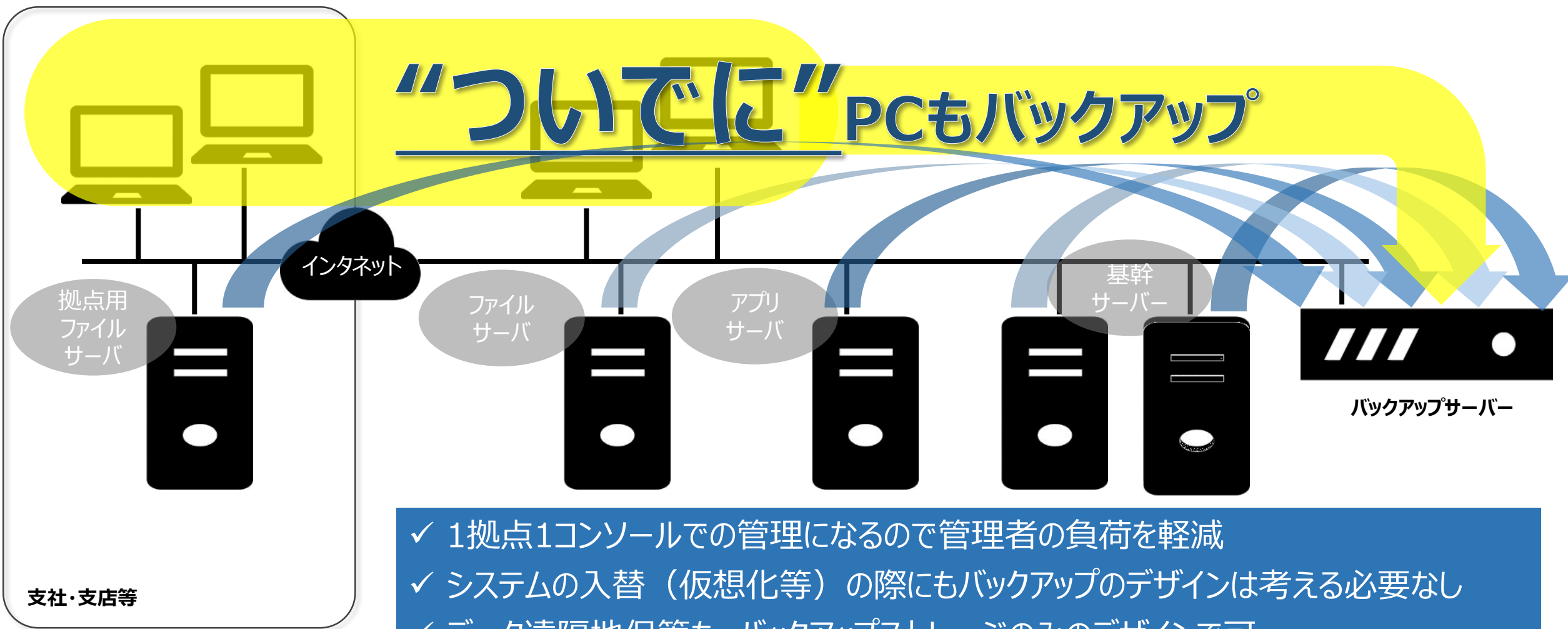
- ✓ バックアップ装置が点在していて既に煩雑
- ✓ リモート拠点のPCはどうすればよいのか？
- ✓ わざわざP Cの為にストレージを買うのは…
- ✓ PC台数分のライセンスも費用負担が…
- ✓ 台数がそこそこあるのでストレージ容量は…
- ✓ 一斉にバックアップが走るとネットワーク負荷が…



散在するバックアップはシステム入替の際の弊害にも


バックアップを「基盤」として考える

“ついでに” PCもバックアップ



- ✓ 1拠点1コンソールでの管理になるので管理者の負荷を軽減
- ✓ システムの入替（仮想化等）の際にもバックアップのデザインは考える必要なし
- ✓ データ遠隔地保管も、バックアップストレージのみのデザインで可

バックアップ統合基盤実現のための要件

 データ増加に対応できる効率的なストレージ利用

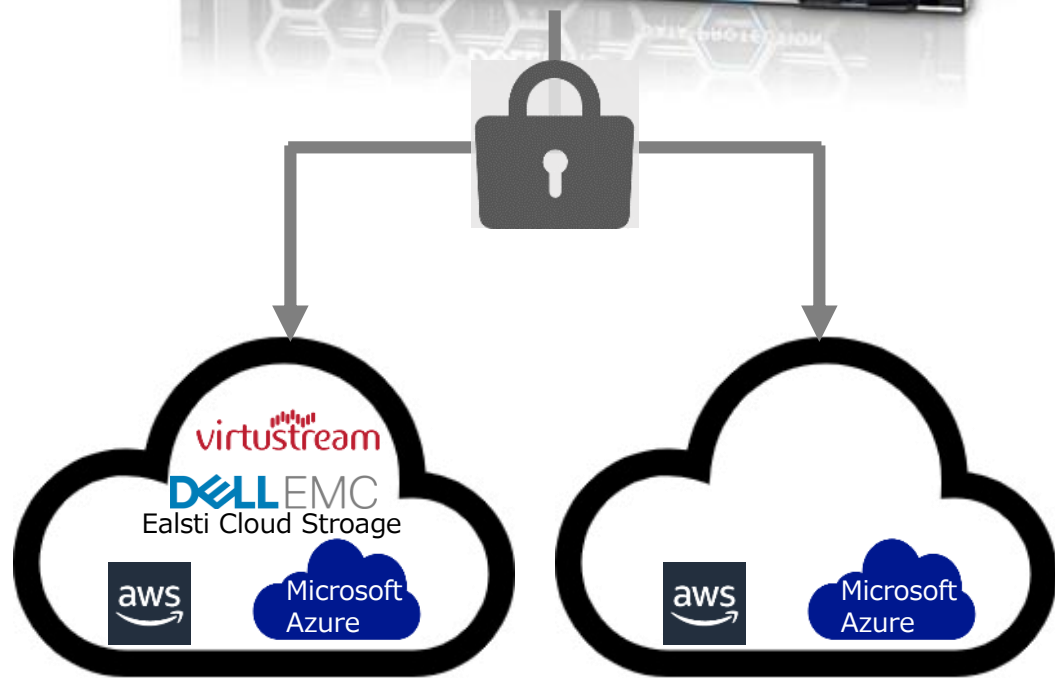
 バックアップの際のネットワーク負荷を少なくする機能

 様々な環境へ単一のコンソールで統合管理が出来る

 バックアップ対象の増加で追加ライセンス費用が発生しない

統合バックアップアプライアンスという選択肢

Dell EMC IDPA DP4400



クラウドを活用したセキュアな
テープレスのデータ長期保管

クラウドを活用した低コストの
遠隔サイト無しの災害対

- ✓ 米国特許取得済の平均55:1の重複排除技術によるストレージ容量利用効率の最大化
- ✓ バックアップ対象側での重複排除処理でネットワーク帯域を最大98%削減
- ✓ 物理・仮想化を問わずあらゆる環境のバックアップを単一のコンソールで実現
- ✓ Oracle、SQL、SAP等の基幹システムと連携したバックアップ管理も可能
- ✓ ストレージ容量内であればバックアップ対象の増加によるライセンス費用等は発生無し
- ✓ データ検証機能による確実な復旧